

「この人 81」

上山美穂 47歳 愛媛県

編集部 俳句を始められたきっかけは？

上 山 バス停で偶然、八木会長とお会いして同じバスに乗りました。その時、俳句に誘っていただき、最初はためらったのですが、“リケジョ”（理系の女性）の私が、あえて俳句というのも面白いかなと思ひまして始めることに致しました。

編集部 滑稽俳句の魅力とは？

上 山 ナレッジサーブという通信教育の会社の俳句講座で、八木会長は「滑稽俳句は日本のタテ社会を一時的に崩壊させ、楽しくゆとりある日常をもたらす」と言っておられます。歯科医として日々仕事をする中で、このことに共感します。

編集部 俳句における「滑稽」とは？

上 山 自分の気持ちをいかに楽しくステキに、たまにちょっと色っぽく表現するか。小さな女の子がいたずらを考えてクスクス笑っているような気分で作るのもアリかなあと思います。

編集部 滑稽俳句を続けていて良かった事は？

上 山 悲しい事があっても、口角を上げて微笑んでいると気分が落ち込まないと言いますが、滑稽俳句は、前向きな生き方を提供してくれます。

編集部 滑稽俳句を作るコツは何でしょうか。

上 山 人にどう思われるかではなく、自分が納得のいく作品を詠むという気持ち大切です。自分の心を俳句という形でキャンバスに描くのです。

【代表句】

草餅の生まれは犬の散歩道
穴あきの紫蘇の葉なめくじさんの分
歯の浮くは氷のせいかお世辞のせいか
喧嘩のタネはサンタさんのいるいない
法の下の平等通らぬバレンタイン